

土砂災害から命を守るための社会貢献事例

(株)藤井基礎設計事務所 ○杉原 正樹

1. はじめに

東日本大震災という未曾有の大災害が発生し、あらためて自然の力というものを思い知らされた。そうした大災害の中であって、先人の言い伝えを守り高台に家を建てていた地区は残ったという話や、防災学習に力を入れていた小中学校の生徒は、速やかに避難して助かったという新聞記事¹⁾を見ると、災害に対する備えがあればいくらかでも被害を少なくすることが出来ると感じるものである。

現在各市町村において、土砂災害、洪水災害等のハザードマップが作成されているが、その活用についてはまだ十分ではないように思われる。

そこで弊社は、土砂災害の知識を有する技術者が、地域と一緒に、「逃げる仕組み」を考えていくことが必要ではないかと考え、6年前より防災学習に積極的に取り組んでいるところである。

今回はその取り組み事例（模型実験、紙芝居、災害図上訓練等）を紹介するものである。

2. 土砂災害をテーマとした防災学習

防災学習会は、参加者が一方的に講義を受けるだけの方式ではなく、模型実験、参加者が直接地図に書き込みを行う等のワークショップ形式を採用して実施した。

(1) 参加者

弊社が主に取り組んでいる防災学習会は、土砂災害の発生が想定される地域を中心とし、学習会後の防災活動の普及も考慮して自治会長、自主防災担当者等の各地区において、リーダー的に活動されている方を中心として開催した。

(2) 学習会の流れ

参加者は10人程度を目安にした学習グループに分かれ、初めに土砂災害の危険性、前兆現象等の土砂災害の解説を聞く、次に災害図上訓練の説明を受けた後、準備してある参加者の住んでいる地域の地図に、危険箇所、避難所、避難ルート等を書き込んでもらう。参加者は書きこみながら気づいた地域の課題等を話し合いメモ用紙等に記録する。書き込みが終了した後グループ単位で現地を歩き、地図の書き込みを見ながら危険箇所、避難所、避難ルートを確認する。最後にまとめを行い学習会は終了となる。（図-1参照）

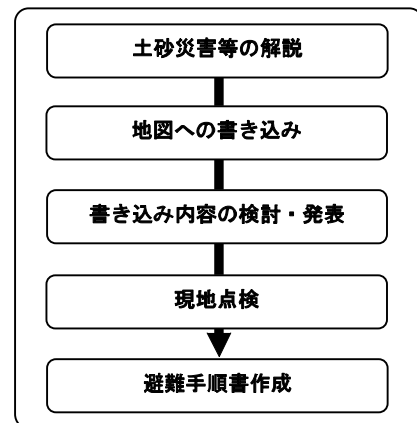


図-1 防災学習会の流れ

3. 防災学習会の内容について

弊社の防災学習会では、土砂災害の危険性・特徴、身近なところにある危険箇所、避難の重要性等について理解を深めてもらうために、以下に紹介する内容を実施している。

(1) 模型実験

土砂災害について基本的な解説は写真・動画等を活用しても行うが、模型を使った簡易な実験が参加者の興味を引きやすいと考え、降雨が影響して地すべりが発生する仕組み、擁壁等の対策施設が効果を発揮する仕組み等を解説する模型を活用する。（写真-1参照）



写真-1 模型実験の様子

